

2017年4月9日(日)朝10:10~

主の復活前第1、役員会等

4月第2棕櫚の日共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：十字架を背負わされた主

聖書:マタイ 27章32~44節

＜口語訳＞

新約聖書48頁

マタイ 27章32~44節

＜新共同訳＞

新約聖書57~58頁

マタイ 27章32~44節

＜新改訳第3版＞

新約聖書60~61頁

マタイ 27章32~44節＜塚本訳＞

新約聖書158~159頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ27章32～44**は、**主イエス様の十字架の道**と表現され、**主イエス様ご自身を罪人として十字架刑**を課す人々の行動は、既に**旧約聖書で預言されていた**とする**マタイの使信**が**隠され、キリスト者への使信**となっています。

⇒今日は、教会暦では、「**棕櫚の主日**」で、**主イエス様が、十字架にかけられた前の週の最後のエルサレム入城**を記念する日です、群衆は、**棕櫚の葉**を振ったり、**道に敷いたり**して、「**救い主(メシヤ)**」として歓迎しました。

⇒「**棕櫚の主日**」は、教会暦では、「**主の受難週**」の始めの日となっています。

⇒「**十字架**」は、**主にとって受難・苦難**で、**罪人**として扱われる屈辱の道でした。

⇒実際は、鞭打ちや徹夜の審判で衰弱し切っておられた**主**に代り、**十字架**を背負ったのは、**クレネ人シモン**でした。

本論；

◇本日、**マタイ書27章32～44節**から主の使信に思い・心をとめます。

◆**マタイ27章32～34節**；使徒マタイは、主が苦みを混ぜた酸い葡萄酒を飲むことを拒否されたことを記録しています。

◇32～56節；塚本訳◆十字架

「32（都を）出ると、シモンと言うクレネ人に出くわしたので、兵卒らはこの人に有無を言わせずイエスの十字架を負わせた。（イエスにはもう負う力がなかったのである。）

33 ゴルゴダという所——すなわち「髑髏（しゃれこうべ）の所」——に着くと、

34 人々は（苦痛をやわらげるために）『苦艾』を混ぜた葡萄酒を『飲ませようとした』が、なめただけで、飲もうとされなかった。」と、使徒マタイは語っています。

◇32～34節；「シモンと言うクレネ人に出くわしたので、兵卒らはこの人に有無を言わせずイエスの十字架を負わせた」、「ゴルゴダに着く」と、「人々は（苦痛をやわらげるために）」

『苦艾』を混ぜた葡萄酒を『飲ませようとした』が、なめただけで、飲もうとされなかった」と、マタイは記録しています。

⇒「**クレネ人シモン**」は、有無を言わせず、ローマ政府の権力で十字架を負わされましたが、**主イエス様**は、罪のないお方なのに十字架に釘つけられました。

⇒ある方は、「**クレネ人シモン**」を「わたしについて来たいなら、自分の十字架を負ってわたしについて来なさい」との主のことばに従うキリスト者になるぞえます。

⇒**主イエス様**は、「『苦艾』を混ぜた葡萄酒」を「なめただけで、飲もうとされなかった」のです。

⇒このことは、**主旧約聖書詩篇69篇21節の預言成就**です。

⇒「彼らはわたしの食物に毒を入れ、わたしのかわいた時に酢を飲ませました」とありますが、**主イエス様**は、「『苦艾』、**毒**、**苦み**」、すなわち麻酔の要素を含めた**酸い葡萄酒**をもって、**十字架の苦痛**を緩和する方法を選択されなかったということです。

⇒そこに**主の苦難・受苦**があります。

◆ マタイ27章35～38節 ; 使徒マタイは、主がユダヤ人の王として生き抜いて下さったことを記録しています。

◇ 32～56節 ; 塚本訳 ◆ 十字架

「35 兵卒らはイエスを十字架につけると、『籤(くじ)を引いて』その『着物を自分たちで分けた』のち、

36 そこに坐って見張りをしていた。

37 イエスの頭の上にはこれはユダヤ人の王イエスであると書いた罪状が掲げられた。

38 その時イエスと共に二人の強盗が、一人は右に、一人は左に十字架につけられた。」と、使徒マタイは語っています。

◇ 35～38節 ; 「兵卒ら」は、「『籤(くじ)を引いて』その主イエス様の『着物を自分たちで分けた』」、「イエスの頭の上にはこれはユダヤ人の王イエスであると書いた罪状が掲げられ」、「イエスと共に二人の強盗が、一人は右に、一人は左に十字架につけられた」と、マタイは記録しています。

⇒「兵卒ら」が、「主イエス様の『着物を自分たちで分けた』」のは、「兵卒ら」の役得でした。

- ⇒これも、**詩篇22篇18節の預言の成就**で、「彼らは互にわたしの衣服を分け、わたしの着物をくじ引にする」の通りにしたのです。
- ⇒**主イエス様**は、「**ユダヤ人の王の罪状札**」を**十字架のうえにつけられ**、「**強盗ら**」とともに、**十字架につけられた**のです。
- ⇒「**強盗**」は、犯罪者ですが、**主イエス様**は、罪人の身代わりとなって、**十字架刑**を受けて下さったのです。
- ⇒「**ユダヤ人の王**」は、ローマ総督ポンテオ・ピラトによる皮肉表現ですが、**主イエス様**は、実質**十字架**を負わせたユダヤ人たちの真の王として、彼らの罪も背負って下さったのです。
- ⇒「イザ53:5 **しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。**」
- ⇒「イザ53:12 **これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人の罪を負い、とがある者のためにとりなしをした。**」

◆ マタイ27章39～44節 ; 使徒マタイは、主が
通行人、ユダヤ人指導者、強盗らの嘲りや
ののしりを忍耐して受けて下さったことを
記録しています。

◇ 32～56節 ; 塚本訳 ◆ 十字架

「39 通りかかった人々が『頭をふりながら、』
イエスを冒瀆して、

40 こう言った、「お宮をこわして三日で建てる
という人、自分を救ってみろ。神の子なら、
十字架から下りてこい。」

41 同じように大祭司連も、聖書学者、長老と
一しょに、こう言ってなぶった、

42 「あの男、人は救ったが、自分は救えない。
イスラエルの王様じゃないか。今すぐ
十字架から下りてくるがよい。そうしたら
信じてやるのに！

43 『彼は神にたよっている。神が可愛がって
おられるなら、』今すぐ『救ってくださろう』だ。
『わたしは神の子だ』と言ったから。」

44 一しょに十字架につけられた強盗たちも、
同じようにイエスを罵った。」と、使徒マタイ
は語っています。

◇39～44節；「通りかかった人々」、「大祭司連も、聖書学者、長老」、「強盗ら」が、「イエスを罵った」と、マタイは記録しています。

⇒「通りかかった人々」は、「お宮をこわして三日で建てるといふ人、自分を救ってみろ。神の子なら、十字架から下りてこい」と言い、うわさかユダヤ人指導者の入れ知恵かで、主を嘲りました。

⇒主イエス様は、ヨハネ2:19で、「【口語訳】ヨハ2:19 イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう。」と、ご自身の死人の中からの復活を予告されましたが、彼らは、主イエス様の真の思いを理解できなかった。

⇒「大祭司連も、聖書学者、長老」は、「あの男、人は救ったが、自分は救えない。イスラエルの王様じゃないか。今すぐ十字架から下りてくるがよい。そうしたら信じてやる」、「『彼は神にたよっている。神が可愛がっておられるなら、』今すぐ『救ってくださろう』だ。『わたしは神の子だ』と言ったから」と、

⇒主は、罪人のために十字架の死、を負われた。

- ⇒「十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスを罵った」と、
- ⇒「強盗らの罵りのことば」は、記録されていませんが、「神の子」の十字架上での詩篇22篇を讚美し、祈って、「マタ 27:46 そして三時ごろに、イエスは大声で叫んで、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と言われた。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。」と、叫びつづけておられた主イエス様の思い・執成しを理解できませんでした。
- ⇒「通りかかった人々」、「大祭司連も、聖書学者、長老」、「強盗ら」は、神信仰を見失う時は、主イエス様を荒野に連れて行き、「石をパンに変えろ」と、誘惑したサタンの心が支配している時なのです。
- ⇒神信仰の心の目で、主イエス様の思いを見る時、主イエス様が、父なる神の命令に逆らって、十字架から降りてくることはできないことを理解できるのです。
- ⇒「神の御子の全能の力」を信じるあまり、癒さない主に疑いを抱くのも同じ罪なのです。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
 - ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
 - ◇**マタイ27章32～44**は、**主イエス様の十字架の道**と表現され、**主イエス様ご自身を罪人として十字架刑**を課す人々の行動は、既に旧約聖書で預言されていたとする**マタイの使信**が隠され、**キリスト者への使信**となっています。
- ⇒「**クレネ人シモン**」は、「**通りかかった人**」で、有無を言わず、**主の十字架**を背負わされましたが、**KT師**は、**神の恵み**として、ある意味で、背負わされる**主の十字架**を理解する者にされたいと訴えておられます。
- ⇒**主の十字架の意味**を**神信仰の目**で見つげないと、**神の愛に満たされ**、罪人のために、**神に赦しを求め**、「**ルカ 23:34 そのとき、イエスは言われた、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです**」の叫びも、聞こえません。